

令和5年度 第2回図書館協議会 会議録

- 日時 令和5年8月24日(木) 15:30~16:30
- 会場 恵庭市立図書館本館 会議室
- 出席者 委員
会長ほか4名
事務局
教育部次長、読書推進課長、
読書推進担当主査、学校図書館・施設計画担当主査
図書館長(指定管理者)
- 傍聴者 3名

<次 第>

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 教育部挨拶
4. 議 題 (1) 報告事項 市民アンケート及び市民懇談会の結果について
(2) 協議事項
 - ① 第2期恵庭市読書活動推進計画について
 - ② 図書館本館改修基本構想について
5. そ の 他
6. 情報交換
7. 閉 会

◆質疑

○報告事項 市民アンケート及び市民懇談会の結果について

A 委員 小学生アンケートの「図書館に行ったことがあるか」との設問について、行かない理由に「図書館の場所がわからない」というものがあった。例えば、学校単位での見学等の申し込みはあるか。「読書のまち」として、認知度を上げていく取り組みが必要。

事務局 学校からの見学は毎月のように受け入れており、学年毎・学級毎など、その数も多い状況である。

事務局 「親に連れて行ってもらえない」という回答もあった。今回アンケートに協力してもらった若草小学校は、図書館の本館・分館が近くになく、児童のみでの来館が距離的に難しい環境にある。

B 委員 幼稚園では、親子で図書館に行く事業「親子図書館」がある。絵本の読み聞かせを体験

し、絵本を借りて帰る内容。図書館の利用者カードは、あらかじめ作ってもらう。

C 委員 恵庭市では移動図書館（図書館バス等）は稼働しているか。また、現在の自習スペースについて、パソコンの利用はできるがコンセント等の設備が整っていない。図書館利用者増を見込んだスペースの充実を望む。

事務局 現在準備を進めている図書館本館改修基本構想の中で検討していく。

事務局 移動図書館の設置はない。

C 委員 コンセントについては、延長コードを設置するなど、今現在でもできることはあるので検討してほしい。移動図書館は、図書館施設と利用者との距離的な問題を解決するので、導入を検討してほしい。

D 委員 校長会で、複合施設の設置計画が恵央及び柏陽地区にあると聞いた。多目的な使用を考えているのであれば、その施設に自習スペースを設け、図書館は図書館本来の機能に特化した取り組みを行うということも考えられる。併せて、その複合施設に図書館の蔵書を置くことができれば、地域住民が本に親しむ機会も増えるのではないか。千歳市には「まちライブラリー」があり、自習をする中学生・高校生が来ている。自習する場所が別途確保できていれば、図書館に自習スペースを設ける必要はないのではないか。

事務局 図書館内に中高生が求める自習スペースがあることで、学習の合間に書架の本を手に入る機会もあるのではないかと考える。様々な方法があると思うが、人と人とのコミュニケーション機会の提供など、読書そのもの以外のことを効果的に絡めることで、読書量が低下する世代の読書推進に繋げていくことを念頭に置き、この後協議する「第2期恵庭市読書活動推進計画」の素案を作成した。

A 委員 市民が本に親しむ環境としては、恵庭市にはまちじゅう図書館もある。現況はどうなっているか。

事務局 コロナの影響で展示していた本を撤去する状態が続いていた。コロナが第5類に変更になり、これからの取組みの方向について、改めて参加館と参加継続の可否も含め調整していきたい。

A 委員 取組みのPRが重要になってくる。しっかり周知することで、行事のボランティア等でも効果が表れてくるのではないか。これまでの取組みについても、重要なものを確実に継続していくことが必要。

○協議事項① 第2期恵庭市読書活動推進計画について

C 委員 図書館利用者アンケートの回答者年代が高く、市民全体の傾向として結果を捉えるのに

は疑問。事業番号 11 に「高校・大学世代に対する読書活動の推進」とあるが、具体的にどのような取り組みが想定されるか。

事務局 市民懇談会でも様々なアイデア・情報が出ており、高校の図書局との連携といったものがあった。

C 委員 「花のまち」事業や専門学校との連携により、図書館を通じての情報発信を行うことで、双方に有益になるのではないかと考える。あるものを上手に利用すれば、予算等の負担も軽減される。

事務局 推進計画は方向性を示すものであるため、具体的な取り組み内容については今後詳細を詰めていくこととなる。

E 委員 サードプレイスについてもう少し説明が欲しい。ここまでに出てきた自習スペースとは違うものか。

事務局 自習スペースの提供により解決する場合も考えられるが、さらに踏み込んで、図書館内に適応指導教室のような居場所を設置するアイデアもあった。まず、居場所を求める人が安心して来ることができるスペース・雰囲気は図書館にあればと考える。

E 委員 この語句が出てくる事業番号 35 番は「読書のまちにふさわしい図書館づくり」となっている。石狩の図書館で実施している飲食や特産物の販売を行うコーナー等の設置なども考えられるか。

事務局 図書館本館の改修構想を考えているタイミングであり、貸室等も含め、新しい要素を取り込むことで図書館の魅力がより増すような方向を目指していくことを、この事業により示した。

～閉会